

2月2日阪南市日中友好協会の春節会に参加して

見本重宏

本年も、中国の新年を祝う春節会が南海電車淡の輪駅にある池田泉州銀行研修所で盛大に開催され、お招きを受け参加させて頂きました。当日は113号会報及びカレンダーを各10部持参し、カレンダーは主に留学生のお土産と致しました。

当日は大阪府日中友好協会藤井事務局長始め和歌山外国語学校の留学生10名と先生を始め、総勢35名が参加され皆様と楽しい一時を過ごしました。

今回の春節会では、特別なイベントを行わず懇談意見交換を中心に行われた事です。冒頭の挨拶で明石会長は、「政治面で非常に緊迫し、更に双方の国民感情の悪化の中で、創立(1991年)以来堅持している《普通の市民による草の根交流》を押し進める」と述べられました。藤井事務局長は来賓の挨拶で「出席予定であった谷井会長の体調不良による欠席報告と共に、事務局として地区協会毎の交流支援活動を進める」と述べられました。

私は、当会の説明と共に「政治には関与できないが各日中友好団体が意見交換や座談会等開催する事で、お互いの活動内容を理解し具体的協調性を図り、緩やかな連携(各団体の独自性を保持)を深める事が、日中間の厳しい局面に対応する「民を以って官を促す」具体的活動ではないか」と所見を述べさせて頂きました。

食事会では高級和歌山牛の霜降り肉を使った、お馴染みの“すき焼き”を賞味させて頂き、更にビール・日本酒・焼酎などで乾杯の繰返し、今年も“びんご大会”で大盛況でした。途中で、参加された留学生全員の自己紹介があり、彼等は昨年10月に大志を抱き来日した方が多く、大部分は「すき焼き」も初めての様で異文化の中で戸惑いを感じながらも、春節を祝い楽しんでいました。明日からの勉強に励んで欲しいと思いました。

毎回、肩肘張らず普通の市民の温かさによる草の根交流・交流の原点を感じさせられる一日でした。更に、初めて名刺交換させて頂いた方(崎山理事)と懇談する中で、私の従妹の仲人をされた方と知り、また経営する会社(崎山不動産)が近所にありビックリしたことも報告します。地元ならではのエピソードが多かった春節会でした。

最後に、中務武志理事長の締め挨拶で春節会は閉会となりました。



明石会長の挨拶



留学生の自己紹介



中務武志理事長の締め挨拶